

神戸大学長退任にあたって

法人化の光と影

2021年3月19日

学長定例記者会見

神戸大学長 武田 廣



法人化の光と影(1)

- 2004年に89の国立大学が法人化された。(現在は85法人)
郵政民営化の流れ。国家公務員数削減、行財政改革の一環。
危機感と同時に、大学の裁量部分が増えるとの期待感もあった。

しかし、

- 基盤的経費である運営費交付金が法人化後、毎年削減。
2004年 1兆2415億円 → 2015年 1兆945億円
12年間で約12%の減少。
衆参両院での「運営費交付金の確保に努める」との付帯決議は、
結局「努力目標」に過ぎなかった。
- 2015年以降、運営費交付金は下げ止まっているが、法人評価
に基づく、査定配分が増加。2021年度は1,200億円。
基盤経費から競争的経費の流れは止まっていない。

法人化の光と影(2)

- 運営費交付金削減と平行して、総人件費削減(年1%)の枠がはめられる。全体として、神戸大の場合、毎年教員7名の削減を行ってきた。一部は学長戦略ポストとして再配分。
- 結果として、新規採用枠が激減し、**常勤若手研究者の減少**に繋がっている。これは、全国的な傾向であり、大学における教育・研究に関して極めて憂慮すべき事態。大学院進学者も減少。
- 競争的外部資金の獲得を目指し、ある程度成功。
 - 一> 教育・研究の時間が減る
 - 一> 大学全体のパフォーマンスが下がる
(世界大学ランキングでの低迷)
 - 一> 殆どの外部資金はプロジェクト型の補助金であり、事業終了後のフォローアップは、大学で負担

法人化の光と影(3)

- 様々な評価疲れ(膨大な書類、報告書)
法人年度評価、中間評価、大学認証評価等々。
提出する方も大学教員なら、審査する方も大学教員。
- 産学連携が推奨され、企業との共同研究、知財の活用などで自己収入の増加が求められる。
- 基礎的な学問分野(哲学、素粒子物理学など)を大学としてどう維持していくかの判断が迫られる。

(小柴先生の名言? 迷言? 暴言?)

「ニュートリノ? 世の中の役には立ちません」)

法人化の光と影(4)

- 光はまだ見えぬ

2022年度からの第4期中期計画・中期目標期間に向けて、文部科学省、内閣府、国立大学協会などで、(国立)大学のあり方が検討されている。

- ガバナンスコードの制定など、経営体としての組織運営が求められている。学長選考会議も学長選考・監察会議となりそう。

- 年次計画、年度評価は廃止の予定であるが、運営費交付金の配分方法は未定。

神戸大学の運営方針

～先端研究・文理融合研究で輝く卓越研究大学へ～



平成27年4月

国立大学法人神戸大学長 武田 廣

大学のミッション再定義

- 平成25年～26年に、全国86大学の各分野に対して、文科省主導のもと、「ミッションの再定義」なる作業がおこなわれた。
- 怖い文言が**人文・社会系**の全ての分野に挿入された。「18歳人口の減少や人材需要、教育研究水準の確保、国立大学としての役割等踏まえた組織見直し計画を策定し、**組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換**に積極的に取り組むべきではないか」
 - 一> 平成27年6月8日の文科省通知で明言され、人文・社会系の軽視であるとの反論の嵐が吹き荒れる。文科省は「誤解」であるとして、修正はせず。

文科省による国立大学の3分類

大学として以下の3つからひとつ選択せよ。

(運営費交付金の配分方式に影響するとの噂 : 本当だった)

- 1) 地域密着型 * * 教育大学等 55大学
- 2) 地域貢献＋特色型 * * 芸術大学等 15大学
- 3) 世界水準の教育研究 16大学
北海道、東北、筑波、千葉、東京、東京工業、一橋、
東京農工、金沢、名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、
広島、九州

神戸大学は研究大学として 生き残れるか？

- 10学部、15研究科の総合大学
- 学生・院生 約16,000 教職員 約3,600
- 社会系(経営、経済、法)に伝統がある。
伸びてきている理系分野との組み合わせが焦点。
文理融合で新領域開拓の可能性。
- 近くにある阪大・京大との棲み分け・連携



神戸大学 機能強化の取り組み

- **科学技術イノベーション研究科**の設立(2016年度)
理系の先端技術と社系の社会実装を融合
- **国際人間科学部**の設立(2017年度)
学部におけるグローバル人材養成の牽引
- **海洋政策科学部**の設立(2021年度)
高度海技士、海洋科学、海洋政策の3本柱
- **数理データサイエンス**教育の充実
- **学長のリーダーシップ**の確立
教員、部局長の人事権。年俸制の導入。学長裁量
枠の設定。

科学技術イノベーション研究科

研究科の目的

木や草などの植物から、微生物機能を利用し、バイオ燃料やバイオ由来化成品の生産を行い、脱石油資源の循環型社会の実現を目指す

HPC(スパコンを利用する高性能計算)とIoT(広域ネットワーク化情報技術)の連携により、情報通信デバイスとIT応用技術分野で世界最先端の研究開発を推進する

バイオ
プロダクション
分野

先端IT分野

アントレ
プレナーシップ
分野

先端膜工学
分野

先端医療学
分野

膜を用いて水浄化やガス分離を行うことで、省エネ・創エネプロセスによる資源循環型社会の実現を目指す

iPS細胞やコンピュータシミュレーション、新規ワクチン製造基盤技術などの革新的医療開発手法と医療産業特区の活用により新規治療法および診断法創出を総合的に推進する

国際人間科学部

- 国際文化学部と発達科学部を統合
- 入学定員 370名
在学中に海外留学、海外研修が必修
- グローバル社会で生起する環境問題、自然災害、民族紛争、宗教紛争、貧困問題、教育社会福祉問題等、我々が克服すべき諸課題を深い人間理解に基づいて解決できる**実践型グローバル人材**を養成することを通じて、持続可能な社会の実現を目指す。

海洋政策科学部の設立

- 高度海技士、海洋科学、海洋政策の3本柱
- 前期日程入試志願倍率増加
2.8 → 3.5（特に文系重視型は5.5倍！）
- 新船は「海神(かいじん)丸」と命名
- 2021年2月19日に起工式

海神丸の完成予想図(2022年度完成予定)

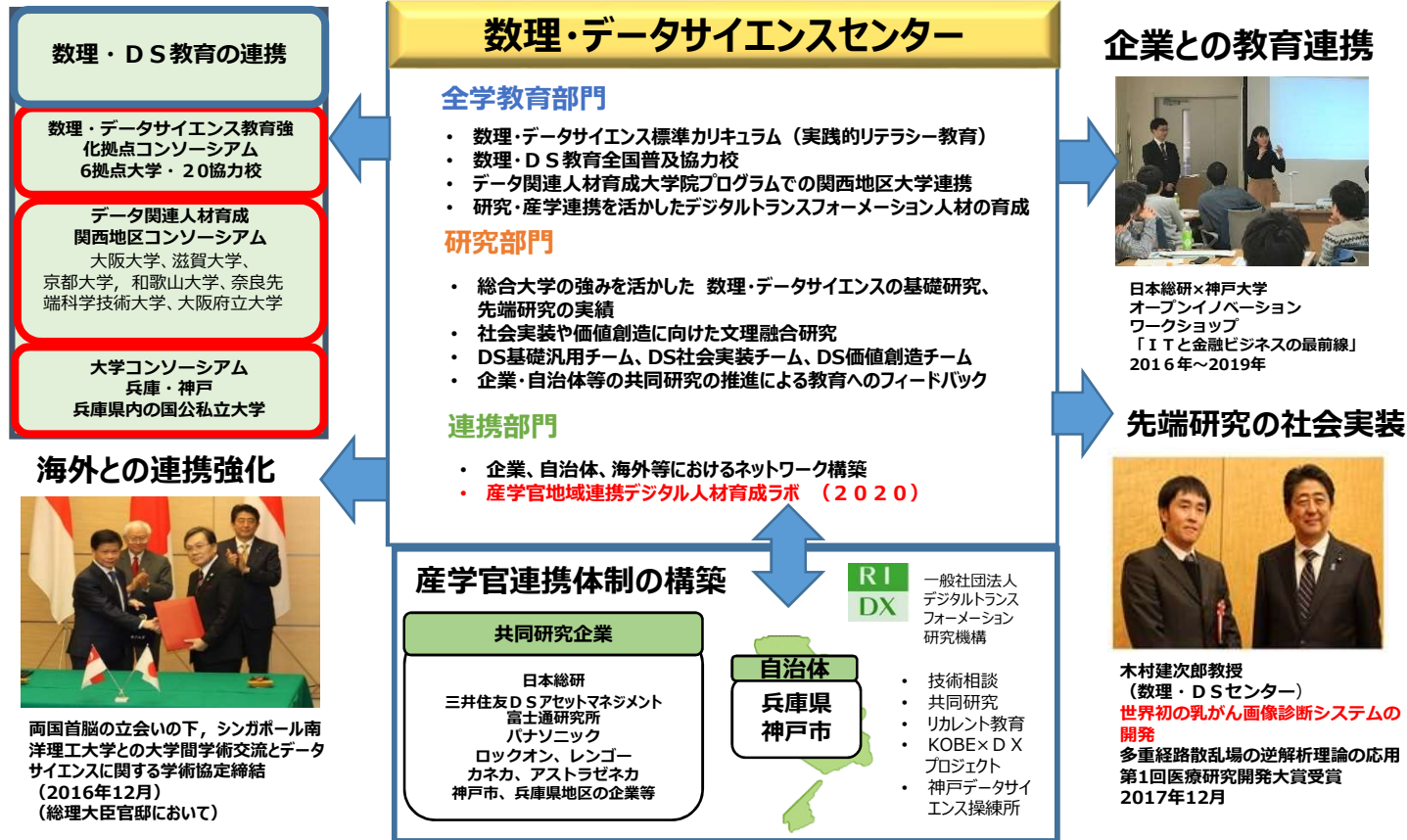


災害救援、海洋底探査機能も搭載

数理・データサイエンスセンター



Society5.0を牽引し、データから価値を創造する人材の育成
産業・実社会と緊密に連携した先端研究・文理融合研究の推進



2017年12月設立

専任教員 11名
協力教員 43名

2017年3月

計算社会科学
研究センター 設立

新型コロナウイルスと大学



- 最後の1年間は、COVID-19対策に忙殺。
- 留学生受け入れ、学生の海外派遣、研究活動などの再構築が必要。
- 教育：対面とオンラインのハイブリッドを模索せざるを得ない。
- 日本社会の弱点も多々あぶり出された。

人文・人間科学、社会科学、自然科学、生命・医学の
 本学すべての知を結集して社会とともに協働し、
 レジリエンスを発揮する「Withコロナの社会構築へ」



人文・人間科学

社会科学



生命・医学

自然科学



様々な学問が融合し様々な課題へ挑戦

新型コロナ対策の提案研究

治療法・治療薬	施設・体制	迅速化/高精度化	衛生用品	予測と分析	経済	健康・福祉	政策調査提言	情報発信
<p>7_レプリコンスクリーニング 保健学研究科・小瀧</p> <p>12_自己免疫インフラソーマ 保健学研究科・駒井</p> <p>17_放線菌由来化合物 保健学研究科・小瀧/亀岡/重村</p> <p>39_Sialic Acid Prove 科学技術イノベーション研究科・ヴァヴリツカ</p> <p>ワクチン</p> <p>2_経口ワクチン 科学技術イノベーション研究科・白川</p> <p>32_BCGワクチン 科学技術イノベーション研究科・北川</p>	<p>30_ICU開設 医学研究科・山中/岡田</p> <p>37_トリアージAI 医学研究科・中井</p> <p>医療機器・器具</p> <p>11_3Dプリンタ活用 臨床医療推進センター・寛</p>	<p>3_検査キットプラットフォーム 工学研究科・丸山</p> <p>15_SARS-CoV-2センシング 工学研究科・竹内</p> <p>16_モノクローナル抗体 医学研究科・船越</p> <p>21_胸部X線診断 医学部附属病院・西尾</p> <p>34_テラヘルツ波検出 工学研究科・小島</p> <p>35_水近赤外吸収 農学研究科・ツェンコヴァ</p>	<p>4_PUマスク 理学研究科・津田</p> <p>10_消毒液供給 医学部施設管理課・笹部</p> <p>ウイルス除去</p> <p>28_飛散ウイルス撃滅システム 数理・データサイエンスセンター・木村</p> <p>予防意識</p> <p>25_感染症への国民意識調査 保健学研究科・重村</p>	<p>8_予測数理モデル システム情報学研究科・國谷</p> <p>14_ウイルス飛沫予測 システム情報学研究科・坪倉</p> <p>41_Social Distanceモニタ 工学研究科・鈴木</p>	<p>18_家計影響 人間発達環境学研究科・田畑</p> <p>47_食農影響と価値創造 農学研究科・中塚</p> <p>経営</p> <p>19_IT活用調査 経営学研究科・藤原</p> <p>29_管理会計とBCP 経営学研究科・三矢</p> <p>31_就労上心理、行動への影響 経済経営研究所・江夏/経営学研究科・服部</p> <p>33_中小企業コンソーシアム Vスクール・忽那</p> <p>49_組織対応調査 経営学研究科・服部</p>	<p>5_座位時間 保健学研究科・井澤</p> <p>22_睡眠・Well-being変化 人間発達環境学研究科・古谷</p> <p>52_発達障害児支援 人間発達環境学研究科・山根</p> <p>生活変化</p> <p>24_ネットゲーム依存 医学研究科・曽根</p> <p>26_ひとり親世帯の食生活 農学研究科・石田</p> <p>36_高齢者リスク 人間発達環境学研究科・片桐</p> <p>43_外国人生活 人文学研究科・平井</p> <p>48_行動・生活変化実態 人間発達環境学研究科・青木</p> <p>50_収束後働き方提言 保健学研究科・塩谷</p>	<p>1_芸術文化支援 国際文化学研究科・藤野</p> <p>13_機関調整と私権補償 社会システムイノベーションセンター・金子</p> <p>27_感染症の倫理学 先端融合研究環・松田</p> <p>38_バーシックインカム 法学研究科・飯田</p> <p>歴史的観点</p> <p>42_歴史社会人文学 人文学研究科・白鳥</p> <p>51_比較都市史的研究 人文学研究科</p>	<p>9_学術情報提供HP 保健学研究科・中澤</p> <p>53_マイクロリズム観光産業支援 国際文化学研究科・辛島</p> <p>学生ケア</p> <p>23_環境変化によるストレス 医学研究科 保健センター・青山/毛利</p> <p>44_一人暮らし学生サポート 未来世紀都市学研究ユニット道場・祇園</p> <p>教育・教材</p> <p>6_感染速度論教材 理学研究科・大西</p> <p>20_家庭食材でできる実験授業 農学研究科・宇野</p> <p>40_空間デザインコンペ 工学研究科・鈴木</p> <p>45_大学教育のあり方 Vスクール・玉置</p> <p>46_附属中卒研 人文学研究科・藤田</p>
治療法・ワクチン開発	医療崩壊対策	検査技術	感染予防	データサイエンス	経済	くらし	学術	学内その他

最後に



- * 医学研究・診療を通じたコロナ対策
- * 分野の多様性、組織のゆとりが大事
- * グローバルな課題解決に貢献
 - V. スクール、SDGs推進室、産官学連携本部、
科学技術イノベーション研究科 等々
- * 生きている間に、暗黒物質の正体を知りたい。

これからも神戸大学をご支援ください。